


ふりがな 氏名	たびらき かんたろう <b>田開 寛太郎</b>	都道府県	<b>東京都</b>	
所属/肩書	<b>東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程</b>			
私のESD活動	<b>富山県を舞台に、大学生が地域協働を通して、環境教育を軸とした大学間横断プロジェクトを展開しています</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>環境教育</b>	<b>社会教育</b>	<b>野生生物復帰</b>	

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

ESD を戦略的に一層推進するため、若者が担う役割が注目されている。私は、富山 ESD 推進プロジェクトとして、富山県内の若者(大学生)が地域協働や環境教育・ESD の活動に取り組むための団体 ToyamaResCo(通称「トヤマレスコ」)を立ち上げた。ToyamaResCo は、3つの“Co”を理念に活動を展開する。

**1)College** ←カレッジ: ToyamaResCo のメンバーは、富山県内全ての大学から学生を募り構成される。定例会(月1回)を実施し、地域活性化や ESD に関する様々な分野のことを学ぶ。例えば内容は、実際に中山間地域や人口減少が激しい地域で、地域活性化に寄与する活動実践者より話題提供いただき参加メンバーで議論を交わし学びを深める。

**2)Community** ←コミュニティー: 地域行事やイベントに若者が参加することは、地域活性化に寄与すると考える。また、そのような参加を通し地域と関わることは、地域の良いところを発見するきっかけをつくり、各地域の魅力や特性を活かした地域協働、環境教育・ESD の開発と実践をする上でも重要である。地域行事は、地域の祭事であるお神輿の担ぎ手や、里山の自然散策路の整備など道普請への労力を要員されることもある。

**3)Collaboration** ←コラボレーション: 地域の魅力を抽出するためのワークショップを開き若者と地域住民とが話し合う場を作る。前段の“カレッジ”、“コミュニティ”の活動を若者力で繋げ活性化し、地域の魅力や特性を活かし子供を対象とした ESD へと昇華させる。そのような開発過程の中で、若者は地域の課題と身近な暮らしを結び付け、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を、若い感性で発想し磨き上げる。

・ToyamaResCo の Facebook ページ <https://www.facebook.com/esd.toyama?ref=bookmarks>

・NPO 法人きんたろう倶楽部HP <http://kintaroclub.org/>

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？**

富山県での ESD プロジェクトをまずは継続させたい。ToyamaResCo プロジェクトの現状より、次のような課題が挙げられる。①プロジェクトの継続性とメンバーシップの保持、②地域人材育成の充実、③地域におけるネットワークの拡充、④ESD 普及啓発である。

いくつかの課題解決が求められるが、特に若者による柔軟な発想を重視する。地域におけるネットワークを拡充させ ESD を一層推進したい。特に地域外からの客観的な意見は、地域へ新たな知見を与える。地域はこれまでに気づかなかった課題だけでなく、魅力や特性を再発見することにも繋がる。そこで、若者が自発的に柔軟な発想を持ち発言を行える場づくりを重視する。同時に地域住民だけでなく多様な主体の参加を誘致するため、各自治体と連携しネットワークの拡充を図ることも重要である。具体的には、東京—富山間を繋ぎ、地域づくりやインバウンド観光へと展開し、若者が活躍できる場を創出する。